舞鶴市議会最年少議員

鴨田（かもだ）あきつ通信

後援会だより　Vol.16

発行／鴨田あきつ後援会
舞鶴市字境谷158
TEL0773-75-0800
mail k.akitsu3@gmail.com

二期目への挑戦を決断しました

平成30年執行の舞鶴市議会議員選挙で初当選させていただき、早いもので一期4年間の任期が今年の12月で終了いたします。

当時は定数26人に対して、34人が立候補する大激戦の選挙でしたが、皆様方に多大なるご支持ご支援を賜り、新人ながら2位当選という結果をいただきました。

さて、任期満了に近づき、私自身の進退を考えることとなりましたが、地元をはじめ、広く舞鶴市民の皆様から引き続きの要請を多数お寄せいただき、この度二期目の挑戦を決意した次第です。

政治家のための政治ではなく、市民の手となり足となる。言うまでもなくそれが政治家の役割であります。その考えのもと、この4年間、日々市民の皆様からのお声をひろい、課題解決に全力を注いできました。至らぬ点も多々あったかと存じますが、自分自身が持てる気力体力の全てを市民福祉の向上に注いできたつもりです。

また市長のチェック機能が働いていない議会を変える。その思いで令和3年度には新会派「市民クラブ舞鶴議員団」を立ち上げ、幹事長に就任いたしました。令和4年度には日本維新の会に所属し、活動の幅を広げたところです。

更には私自身も議員になる以前から感じていた、「議員は何をしているかわからない」という疑義を少しでも解消しようと、定例会ごとに「**鴨田あきつ通信**」を発行し、SNS等でも積極的な発信を心掛け、議会の見える化や透明公正なプロセスに力を注いできました。

しかしながらまだまだ道半ば。活動を更に加速させ、誇り高き舞鶴の実現を目指し、改革を実行して参りたいと考えます。

今後とも鴨田あきつ後援会並びに鴨田秋津に対しまして、格別のご支持ご支援賜りますことをお願い申し上げご挨拶に代えさせていただきます。

令和4年10月吉日　鴨田　秋津

令和4年9月定例会　代表質問で市長と直接対決！一方的な答弁に終始

任期最後の定例会でした。**会派を代表し代表質問**に登壇しました。「市長の政治信念と政治理念について」と「子育て環境日本一について」の2点に絞って質問。市長は「努力が報われる社会の実現」「真の弱者を助けあう社会の実現」「信頼を裏切らず、約束を守り、感謝を忘れずに」という政治信条と政治信念を、僅かなぶれもなく真っすぐに貫いていると自説されていますが、この自説される**信条と信念が正しく機能しているか。**

FMまいづる問題と元国際交流員の問題にかけて質問をしました。

1　市長の政治信念と政治理念について

(1) FMまいづる中継局の問題について
(2) ウズベキスタン共和国の元国際交流員への対応について

質問の動画は YouTube（ユーチューブ）で いつでも閲覧できます

■FMまいづる中継局の問題とは

大浦地区と加佐地区は難聴エリアだったことから、防災上の観点から両地域でFM放送が有線で聞けるよう整備するものでした。しかし有線より無線の方が災害時に強いということで、当初予定していた有線ではなく**無線で放送が聞けるよう設計**され、無線工事が完了しました（事業総額約1億6,000万円）。しかし工事が完了しても**加佐地区でFM放送が聴けないことが判明。追加で約2000万円を支出**し、応急的に有線を加佐地区に繋ぎ、一旦有線でFM放送が聞ける状態にした上で、本来の目的である無線で放送が聞けるよう中継局を加佐地区に設置する工事が行われました。しかしながらこの**再工事も失敗し、未だに加佐地区で無線による放送が聞けません。**これが事業の概要です。

■ウズベキスタン共和国の元国際交流員への対応とは

京都新聞や毎日新聞で報道されました。問題は2つ。一つ目に、今年7月まで5年間国際交流員を務め、帰国したウズベキスタン人男性が**市職員から威圧的な対応を受けた**などの被害を、派遣元の自治体国際化協会に訴えていたこと。二つ目の問題点として1月中旬に同協会が提示していた「特例で任期延長が可能」とする通知も、**派遣元が要領で本人確認を求めているにも関わらず、市は本人確認をしないまま、再任用の見送りを判断していた**ことです。

(1) この問題を昨年から追及しておりますが、失敗の責任は設計会社にはなく、市の管理体制にも問題なく、**FMまいづるに責任転嫁するような答弁**を繰り返しています。そして令和4年6月定例会の私自身の一般質問における市の答弁には看過できないと、この時の答弁によって、**FMまいづるは名誉を著しく棄損されたと、答弁の訂正を求めて市長に申入書を提出しております。**失敗を認め、答弁の訂正をしないのか。市長に問いましたが、**「訂正はしない」**との答弁。それどころか更に分断を広げる答弁を繰り返しました。答弁の間違いを認め、謙虚に謝り、これから真摯に向き合えば、関係改善は望めます。ただ市長にはそれができないのです。

(2) については、「部下に確認したが、**威圧的な態度はなかった**」と答弁。再任用の通知についても、特例で延長する必要はなく、本人にも事前に伝えてあり、**ルールに反したことは全くしていない**と答弁。私はこの件を本人から直接詳細に聞き取りしています。上司の威圧的な態度について本人は、**「毎日怖くて夜も眠れず、自殺を考えた」**と訴えました。彼は「5年間、多くの心優しい舞鶴市民の方々と交流し、ずっと舞鶴のことが大好きだった。しかし、最後の最後に**「この国に正義はないと感じた」**と述べています。

裏面に続きます。☞

真の「子育て環境日本一」へ

次に**「2 子育て環境日本一について」**です。以下の３つの要旨について市長に質問しました。

(1) 子育て支援医療費助成制度について
(2) 小中学校の給食無償化について
(3) 産後ケアの充実について

(1) 舞鶴市では、子どもの医療費の一部を助成しています。０歳から小学校卒業までは、入院・外来それぞれ、１か月１医療機関につき200円負担です。これは現物給付、つまり医療機関の窓口で200円を支払えば済みます。（一部例外あり）

一方、中学生になると、外来の自己負担額が200円から1,500円に上がり、かつ現物給付ではなく償還払いになります。一旦、医療機関で全額支払った後、後日保護者が領収書を持って市役所の窓口で手続きをする（郵送も可）ことで、1,500円を超える部分を補助してもらう仕組み。**府内26市町村でいまだに中学生は償還払い一択なのは、舞鶴だけ。**舞鶴と京都市以外の他の自治体では既に、**中学生まで毎月の控除の上限額を定めず、窓口負担なし、もしくは窓口負担が200円となっています。**なぜ舞鶴はやらないのか。問いました。

(2) については、子どもの貧困など、子ども達を取り巻く環境が多様化している中で、格差のない教育環境を目指すことが大切です。**明確に教育の一環である学校給食。その無償化は、フラットな教育環境に繋がるものであり、段階的でも実現すべきと考えています。**学校給食の無償化について教育長の見解を問いました。

(3) については、皆さん、**「産後ケア」**という言葉自体を聞いたことがない方も多いと思いますが、妊産婦の死亡理由でもっとも多い死因は**自殺です**。自殺の要因は、**産後うつ**が原因の一つと考えられています。国において母子保健法が改正され、市町村が出産後１年までの母子を対象に、**産後ケア事業**を行うことが**努力義務化**されました。舞鶴市でも産後ケア事業に取り組んでいますが、利用料金など、全国的にもまだまだ課題が多い状況です。産後ケア事業の充実について市長に問いました。

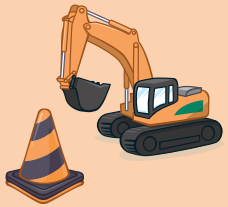
令和3年度一般会計及び下水道会計決算に反対

一般会計決算に反対する理由は、代表質問でも取り上げたFM無線化工事の失敗です。再工事が完了した今日現在においても、無線は不安定な状態で、**これまでから一度も無線による放送が実現できていない中**、この予算を認定することはできません。

次に、**下水道事業会計決算**については、令和３年度では１３億4850万７千円を繰り越しており、その内訳は高野川流域のポンプ場整備等の浸水対策事業費が多くを占めております。

昨年５月に契約締結している静渓ポンプ整備建設工事は、契約から約一年と４か月が経過した今なおも工事に着手すらできておりません。予期せぬ事由で工事が遅れることは一定理解いたします。しかしながら遅れている原因には当初の設計そのものに問題があると考えます。これは人的ミスと言ってよいでしょう。

そしてその遅れが現に工事受注業者の大きな負担としてのしかかっている現状があります。そのような決算を認めるわけにはいきません。



鴨田秋津プロフィール

1981年11月11日生まれ（40歳）

【学歴】拓殖大学経済学部 卒　【趣味】柔道（５段）、魚釣り
【家族】妻・子ども３人（１男２女）

柔道教室で子ども達の指導をはじめ、PTAや保護司活動等
青少年育成活動やまちづくりに取り組んでいます。

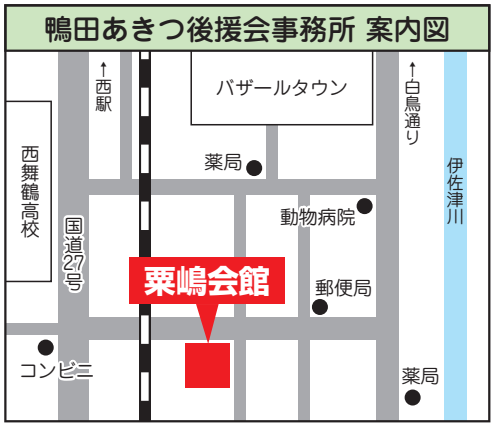
終わりに

鴨田あきつ後援会事務所を開設しました

準備を進めてまいりました**鴨田あきつ後援会事務所**を、下記の通り開設する運びとなりました。つきましてはご多忙のところ恐縮に存じますが、お時間の許す限りお立ち寄り頂き、鴨田秋津に激励を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、新型コロナウイルス感染症が収束に至っていない状況から、**事務所開きは実施を見送りました。**ご理解とご了承を賜りますよう、併せてお願い申し上げます。

■場所　粟嶋会館
　　舞鶴市伊佐津400-2
■電話　0773-75-0800
■mail　k.akitsu3@gmail.com



※お気軽にお立ち寄りください。ボランティアスタッフも募集中です。

編集部よりひとこと

鴨田が市議となり、鴨田あきつ通信を発刊して４年が経過しようとしています。編集部の私達もややこしい議会の用語から勉強し、読者の皆様に分かり易くお伝えできるよう努めてきたつもりです。知れば知るほど、生活と政治が直結していると実感させられましたし、舞鶴市議会が機能していないことも知りました。もっともっと皆さんに興味を持って欲しいと願います。その一助になればと私達も引き続き頑張ります。

地域の要望等、些細な事でも構いません。是非お気軽にご相談下さい！
TEL:0773-75-0800　mail:k.akitsu3@gmail.com

ホームページやSNSでは、日々の活動をより詳細に更新しています。ぜひご覧ください。

ウェブサイト　facebook　twitter　Instagram

KAMODAAKITSU